

新人さん紹介

高松協同病院の 新しい仲間をご紹介します!!

①お名前 ②職種 ③出身地 ④趣味 ⑤特技



- ① 伊藝 圭汰 (いげい けいた)
- ② 理学療法士
- ③ 愛媛県 八幡浜市
- ④ スノー、旅行、自転車(ロードバイク)
- ⑤ スポーツ

少し焦り気味の性格で、周りから見て落ち着きがないように見られるかもしれませんが、これからは社会人なので頑張っ
て落ち着きます。また、患者様に対する適切な対応を忘れずに、親しみのある笑顔で頑張ります。



- ① 中山 清美 (なかやま きよみ)
- ② 看護師
- ③ 香川県 三豊市
- ④ 花の寄せ植え
- ⑤ キンボール・マラソン

季節も春となり新しく協同病院で勤務する事になりました。看護職として知識と患者さんの質の向上援助をしていき、元気に明るくしていきます。



- ① 山本 美佐 (やまもと みさ)
- ② 理学療法士
- ③ 香川県 高松市
- ④ 旅行、スポーツ観戦
- ⑤ バスケットボール

はじめまして。新しい環境で慣れるまで不安もありますが、患者さん一人一人としっかり向き合い、持ち前の明るさで楽しく「ハビリ」していきたいと思
います。よろしくお願ひします。



- ① 内海 紗彩 (うつみ さあや)
- ② 作業療法士
- ③ 香川県 綾歌郡
- ④ おいしいものを食べること
- ⑤ 身体がやわらかい

これから臨床の場で働くことに、不安もたくさんありますが、患者様に信頼される作業療法士になれるようにいつも笑顔で頑張りたいです。よろしくお願ひ
します。



- ① 藤川 真裕子 (ふじかわ まゆこ)
- ② 作業療法士
- ③ 香川県 三木町
- ④ 音楽鑑賞
- ⑤ 合唱

不安でいっぱいですが、知識や技術をたくさんつけ、笑顔をたやせず、患者さまが安心して「ハビリ」に取り組んでいただけるように努力していき
たいです。よろしくお願ひ致します。



- ① 和木 浩城 (わき ひろき)
- ② 作業療法士
- ③ 香川県 高松市
- ④ 食べること、旅行、ご当地の顔出しパネルに顔を出すこと
- ⑤ 記憶力は良い方です

今年度から念願の作業療法士として働かせていただくことになりました。学生時代とは違い、責任感やより一層の自己研鑽が必要になると思うので、先輩職員のご指導のもと精一杯頑張ります。よろしくお願ひ
します。



- ① 松井 理美 (まつい さとみ)
- ② 言語聴覚士
- ③ 香川県 高松市
- ④ カラオケ、スキューバダイビング
- ⑤ バレーボール

患者様の気持ちや想いに共感し、寄り添うことのできる言語聴覚士になりたいと思
います。また初心を忘れず何事にも積極的に取り組んでいきたいです。よろしくお願ひ
致します。

2016年度診療報酬改定について

今回の診療報酬改定は、回復期リハビリテーション病棟にとっては、私たちの今までの取り組みの「見える化」が求められているようです。

回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価として「実績指数」の算出が求められます。従来の回復期は1日9単位までリハビリが算定可能でしたが、今回のアウトカム評価の導入により、リハビリ効果の実績が一定水準を満たさない場合は、1日6単位を超えるリハビリを入院基本料に包括するとされました。また、この「実績指数」は3か月ごとに報告する必要があり、「リハビリの効果」として判断されます。リハビリの質が問われるようになりました。

高松協同病院の現在の実績指数は基準をクリアしています。その背景には、常に患者様を中心にチームが一丸となり、退院後の生活をイメージしたその人らしさを生かした365日のリハビリを提供し、早期在宅復帰を目標としているからだと考えます。

「退院支援加算」が早期在宅復帰を促すものとして新設されました。退院調加算と地域連携診療計画退院時指導料を合わせたような形で、MSWの仕事が診療報酬点数化されたものといえます。入院時から患者様やご家族様と、退院へ向けた目標設定・支援期間や退院先などについて話し合い、全職種が関わってのカンファレンスや書類作成が求められます。さらに、連携医療機関や介護支援専門員、連携介護施設との顔の見える連携が求められています。今まで開催していた地域連携懇談会を継続するとともに、さらに連携を強化していきたいと思います。

また、「退院後訪問指導料」は、今まで当院で取り組んでいた退院患者訪問が診療報酬点数として評価されました。訪問看護ステーションとの連携を強化していきます。

今回新設の「目標設定等支援・管理料」は、要介護・要支援者に対し、算定日上限の1/3を経過して以降に疾患別リハ等を算定する場合で、直近3カ月間にこの管理料を算定していない場合は、リハビリテーション料を1割減算するという内容になりました。回復期リハ病棟入院中も適応されますので注意が必要です。

リハビリテーションは数値だけでは計れないものです。それを今回の改定では「リハビリの効果」として数値で判断され、実績が一定水準を満たさない場合は6単位を超えるリハビリは評価されないのです。一番の被害を受けるのは患者様です。なんとしても入院中の集中的なリハビリテーションをしっかりと確保する必要があります。国の求める数値や書類だけを「見える化」するのではなく、患者様の個別性を大切にしながら、さらなる質の向上を目指す必要があります。

効果の実績の評価基準

3か月ごとの報告において**報告の前月までの6か月間に退棟した患者**を対象とした**「実績指数」が2回連続して27未満**の場合1日上限6単位までしか算定できません。

$$\text{実績指数} = \frac{\text{各患者の (FIM得点[運動項目]の、退棟時と入棟時の差)の総和}}{\text{各患者の} \left(\frac{\text{入棟から退棟までの在棟日数}}{\text{状態ごとの回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数}} \right) \text{の総和}}$$

実績指数の計算対象

報告月の**前月までの6か月間に退棟した患者**(平成28年4月以降に入棟した患者のみ)

ただし、以下の患者を除外

必ず除外する患者

- ・ 在棟中に回復期リハビリテーション病棟入院料を一度も算定しなかった患者
- ・ 在棟中に死亡した患者

まとめて除外できる患者

- ・ 回復期リハビリテーション病棟に高次脳機能障害の患者が特に多い(退棟患者の4割以上)保健医療機関では、**高次脳機能障害の患者**を全て除外してもよい。

(高次脳機能障害の患者とは、入院料の算定上限日数が180日となっている、高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の患者)

医療機関の判断で、各月の入棟患者数(高次脳機能障害の患者を除外した場合は、除外した後の数)の3割以下の範囲で除外できる患者

- ・ 入棟時にFIM運動項目の得点が20点以下の患者
- ・ 入棟時にFIM認知項目の得点が24点以下の患者
- ・ 入棟時にFIM運動項目の得点が76点以上の患者
- ・ 入棟時に年齢が80歳以上の患者

◎除外の判断は遅くとも入棟月分の診療報酬請求までに行うことが必要。

(除外に当たっては、除外した患者の氏名と除外の理由を一覧性のある台帳に順に記入するとともに、当該患者の入棟月の診療報酬明細書の摘要欄に、実績指数の算出から除外する旨とその理由を記載する。)

※在棟中にFIM運動項目の得点が1週間で10点以上低下したものは、実績指数の算出において、当該低下の直前に退棟したものと見なすことができる。

リハ機器の紹介

高松協同病院では、リハビリテーション治療の一つとして、IVES (アイビス) が使用されています。従来は徒手的訓練での促通が主でしたが、使用したい筋肉そのものに刺激を与え、自己では動かせない筋肉を電気刺激により動かしていくという手法です。簡易的な機械ですが、6通りの治療パターンがあり、脳血管障害や整形疾患で上手く筋肉を働かすことができない方に使用する事ができます。特に、脳血管疾患の患者様においては、障害側の脳の血流量を増加させる効果があり、急性期や回復期のみでなく、維持期においても効果があると言われています。ただ、適応対象外となる疾患や症状があるため、誰にでも可能というわけではありません。

腕を上げて、肩に痛みがあった患者様に使用し、使用中は無理な挙げ方をすることなく反復練習ができ、その後、IVESの使用しない状態での同一動作にて肩の痛みなく腕を上げることができた患者様もいました。

まだまだ、リハビリスタッフもいろいろな患者様に試して効果判定をしている段階ですが、脳卒中ガイドラインの上肢機能(腕の動き)において高いエビデンス(証拠)とされているため、より良い治療の提供のためにも、今後も活用の機会を増やしていきたいと思えます。



高松協同病院では歩行訓練のレベルアップのために、免荷型歩行器『POPO』を導入しました。POPOはリフト機能で体重を免荷することで、下肢にかかる負担を軽減します。また、ハーネスが身体をしっかりと保持することで、転倒のリスクが軽減されます。

これまで、重症患者様に対する立位訓練は、ティルトテーブルやスタンディングテーブルなどで、特定の場所に固定し実施することが多くなっていました。また、セラピストの介助で訓練を行う場合、セラピストの負担は大きく、短時間しか訓練できていませんでした。しかし、POPOを導入することで、場所を選ばず、軽介助で訓練が可能となりました。また、患者様もセラピストも負担が減り、安心して訓練を行っています。

POPOは重症例だけではなく、軽症例に対しても使用効果が得られます。「怖くて歩けない」「ゆっくりだったら歩けるけど…」という訴えを持った患者様を経験することがあります。POPOはこれまでの免荷型歩行訓練機器と違い、実際歩行する場面で訓練を行うことができ、実際の歩行と同じように速度感が体感できます。そのため、POPOでの歩行訓練後に、歩行に対する恐怖心軽減、歩行速度の向上といった効果が得られます。



新体制のお知らせ

2016年4月、新入職員を迎えるとともに、事務長の交代をしました。

高松平和病院前事務長の福永が、高松協同病院事務長となります。急性期から在宅までの橋渡し役としての高松協同病院の存在意義を發揮するため、円滑な連携にこだわり新体制で職員一人ひとりの知識と技術の向上と、切れ目のないサービスを一層提供し、地域の医療機関として役割を果たしていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

よろしく
お願いします!!

福永新事務長



通所リハビリテーション

通所リハビリでは、去年1月より選択レクリエーションを導入していますが、今年度4月よりリニューアルすることにし、新たに園芸リハビリを取り入れることにしました。大きく4つに分け、作業リハビリ（クラフト）、運動リハビリ（自主トレ）、脳トレリハビリ、園芸リハビリから選択して頂くようになりました。園芸は初の試みで、土を耕すところから始め、野菜やお花の栽培をしていきたいと思っています。また、ホワイトボードにもイラストを付け、分かりやすくしました。



訪問リハビリテーション科

昨年度、訪問リハビリテーション科では、利用者様の社会参加へ繋げる努力を積み重ねてまいりました。一方、在宅領域においても医療必要度の高い利用者様も多くなってきているのも現状です。今年度も地域包括ケアシステムをより推進すべく、社会参加につなげていく取り組みを継続しつつも、主治医との連携もこれまで以上にとっていくようなシステムを構築していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



介護支援センター協同

桜の花が咲き始め、春を感じ始めた中、N様（53歳）も新しい生活へ一歩を踏み出しました。2回くも膜下出血を発症し、協同病院にも入院。その後成人支援施設を経て現在自宅で生活されています。中学生の長女は何もできないN様を見て、馬鹿にした態度が見られるように…。母からの言葉もあり、父として生活費を稼ぎたいという思いが湧いてきたのか何か所か就労支援施設を見学したが就労には至らず…。そんな中障がい者の求人広告が目にとまり、再度就労意欲が高まったようで障がい福祉の相談員に相談。この4月から就労できるようになり、喜ばれています。このまま仕事が定着し、父としての尊厳を復活させてほしいと願うばかり。今後もN様家族を見守りながら支援していきたいと思っています。

